

三八城の園に

あゆみ

百三十年

校庭のすみの湧水で「小さくてもいいから池を造りたい」小坂校長の思いから始まったビオトープ造り。

当時の先生方、卒業生の自然に対するやさしい想いと、在校生の知恵とパワーをもらってさらさらと さらさらと ただ

ビオトピア:

僕のアルバムの中には

威厳ある八戸小学校の伝統に見守られ、校門を後にしてから、早いもので二年がたちました。僕のアルバムの中には、八戸小学校の温かい思い出が、ビッシリつまっています。

最も思い出深いのは、みんなで造ったビオトープです。百三十年前、八戸小学校が誕生した頃の自然をよみがえらせよう



と、僕たちは、長ぐつをはき、スコップを手には、どろだらけになって、一生懸命造りました。何日かたつて、ミズカマキリやゲンゴロウが、居心地よさそうに戯れる様子を見た時は、とても感動しました。共栄共存こそ、僕たちの本当の幸福だと思います。

八戸小学校に満ちている大きな幸せは、これまでも在校生、卒業生を支えてくれることだと思います。

平成十二年度児童会長

油川大輝

当時、教頭である私は「環境」に強い関心を持っていました。環境汚染、動植物の生存の危機を憂うと共に、校庭にビオトープを持つ仙台市の学校見学などを経て、「子どもたちにも自然の営みの美しさに感動させたい」という思いから、八戸にもビオトープがあつたらなと考えるようになっていきました。八戸の校庭には「湧水」を有するこの上なく魅力的な湿地帯がある。校庭としてはいささか厄介なぬかるみが「水辺の自然空間」となったらどんなに素敵なことか。この発想を事業に転換することは大変なことではある。

しかし、偉大なる指揮官小坂孝夫校長の「勇気と信念」に後押しされて私の保護者、地域等各方面の方々への事業内容の説明が始まったのである。そして、ここでも「思慮と実行の人」橋本康PTA会長の多大なる支援のもと八戸PTAという人の利を得たことはいまでもない。

やがて平成十二年七月二十日、有谷昭男氏の指導と協力を得て、「八戸ビオトープ」造りが開始された。夏の午前、汗を流しての穴掘り、材木並べと石入れ等々の作業を経て八月二十日、壮大な手づくりビオトープの形ができあがったのである。あれから二年。八戸ビオトピアは改良と磨きをかけられ、念願の水鳥の飛来、水生動植物のユートピアとなりつつある。

ビバ、ビオトピア子どもたちに感動を。

八戸市立番屋小学校校長

北川

睦